



大好まだから
重んずる平みさ

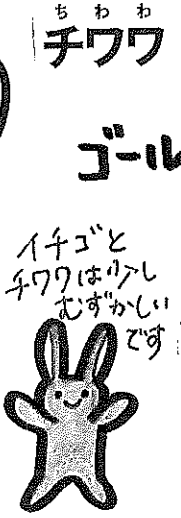
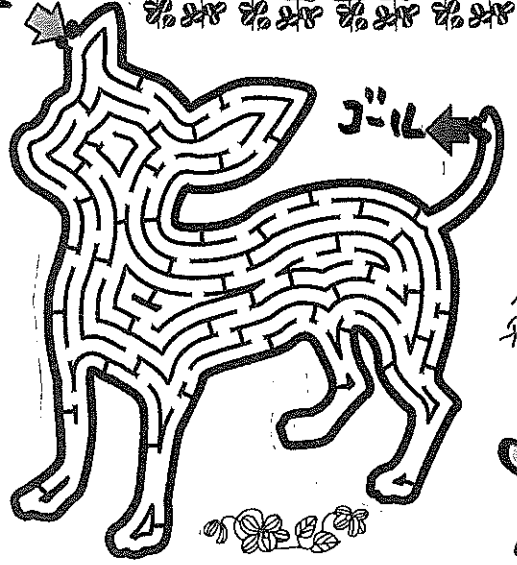
今年の季節、スーパーにいちごが並んでいる。昔、栃木県のお寺へ法務で伺った時に、お寺に寄って来た。お寺のおとめという品種をお土産に買って帰った。酸味が少なく、澄き通るような甘さ。今まで「あまおう」派だったが、その日から「とちおとめ」派にかわってしまった。しかし、岡山で私がいつも行くスーパーでは「とちおとめ」に出会えず、出会うことができないのは、苗屋さんに売っている「とちおとめ」の苗だけ。仕方なく苗を試しに二株買いい育てたが収穫は小さいもの二粒。苗代の方が高かった。いちごは江戸時代末期にオランダ船によって持ち込まれたそう。今、日本で栽培されているのは約80種類。ちなみに苺の品種別ふるさとMAPによると岡山県をふるさととするいちごは「岡山STB1号」と「おいこベリー」だそう。そして園芸学では果物ではなく野菜で、表面のツブツブは種ではなく、ひとつひとつが果実。種はそれぞれのツブツブの中。かわいい姿とは逆に予想をくつがえすいちご。

体の免疫力をアップさせたいこの時世。ビタミンCが不足すると免疫力が低下し、風邪をひきやすくなる。いちごはビタミンCが豊富。みかんやグレープフルーツの約二倍。またポリフェノールの一種であるアントシアニンも豊富で目の働きを高め、眼精疲労を予防する効果も。最近老眼を感じ始めている妙光にはぴったり。身体の健康には食べ物から栄養を頂戴し、心の健康は仏さまの教えから頂戴し、身体と心が共に健康であってこそ、真の健康。

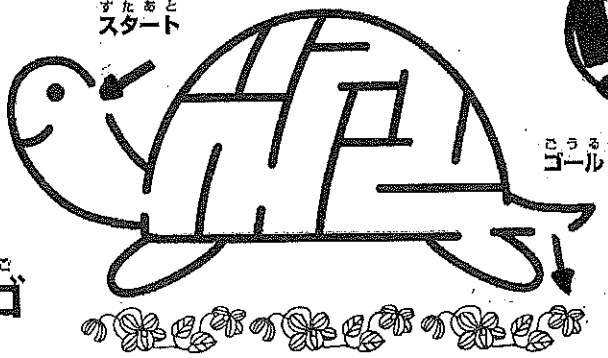
日々檀信徒の皆様が健康で幸せにお過ごし下さいますよう天城の正福寺よりお祈り致します。

- ① 妊婦
 - ② 日本人
 - ③ 副操縦士
 - ④ 函替
- 御会式号のクイズの答え

スタート



いちご



「仏教の信心なんて何の役にも立たない？」

四月八日は「花まつり」。一般的に仏教の開祖である釈尊の誕生日で、日本や中国では各宗派共通に「釈尊降誕会」(しやくそんこうたんえい)「花まつり」という法要が執り行われます。

法話の中で「仏さま」が登場しますが、仏教の開祖である「ブツダ」のことです。「ブツダ」とは「覚者」(かくしゃ)「真理を悟った人」という意味です。日本では俗に「お釈迦さま」「釈迦(しゃか)」「ともいいます。釈迦とは開祖が生まれ出た種族の名で、釈迦族出身の聖者という意味で「釈尊」とも呼びます。お釈迦さまが釈迦族に生れたことは古い仏典にも記され、インドのピプラーワ遺跡から出土した仏舍利骨壺(ぶつしゃりこつぽ)には「サーキヤ族のブツダ・釈尊の遺骨」と記されており、この世に実在した人物に間違いはありません。そのお釈迦さまは、人々を抱えてくる苦しみから救うために教えを説かれたわけですが、目の前の苦しみを即座に取り除くのではなく、急がずにまず相

手の心持を変えていくこと(『柔伏』^{じゆうふく})といえます)から始められました。そして心の迷い、煩惱を除きました(『調伏』^{ちゆうふく})

といえます)。しかし、お釈迦様が教えを説かれる本当の目的は苦しみを取り除く、ということではなく、その先にあり、一切の人間を救う大きな働きがその人から生まれてくるように(『実利』^{じつり})といえます)することでした。仏教を信仰や信心する効果は、お釈迦さまが導いてくださったように、自らの心持が変わることです。自分の心持ちを少し変えるだけで、周りの人や環境が変わっていきます。それにより今抱えている苦しみや悩みが徐々に消えていきます。そうしているうちに、いつの間にか自分のいのちを世の為人の為に役に立て、力を尽くしていきたい、と思うようになります。仏教を信心する私たちの目的です。

- どうしけんしゃ 導師見捨
- かんがしんこ 観我心故
- しよふかんじん 初不勸進
- せつうじちり 説有実利
- によふちようしゃ 如富長者
- ちししれつ 知子志劣
- いほうべんりき 以方便力
- じゆうふくごしん 柔伏其心
- ねんごないふ 然後乃付
- いっさいざいほう 一切財宝
- ぶつちやくによぜ 仏亦如是
- げんけうじ 現希有事
- ちぎようしようしゃ 知樂小者
- いほうべんりき 以方便力
- ちようふくごしん 調伏其心
- ないきようだいぢ 乃教大智

「導師すてられたることは我が心を観じたもうがゆえに 初め勸進して『実の利あり』と説きたまわず 富める長者の子のころざし劣なるを知って 方便力を以て その心を柔伏して然して後にいまし一切の財宝を付するがごとく仏も亦是の如し 希有の事を現じたもう 小を樂う者なりと知しめして 方便力を以て その心を調伏して いまし大智を教えたもう」(妙法蓮華經 信解品第四 より)